



第一回デザイン会議

岡崎（仮）セントラルアベニュー

デザインの方向性と考え方の提案

第2回デザイン会議説明用
2016.08.29

studio on site

1

Quruwa/くるわ

「歩いて楽しく、自転車で回れて、車でも来やすいまち」

3

CAデザインチームからの提案

1. 広域から考える
2. トラフィックセルの考え方
3. 市道籠田線のシェアドレーンについて
4. ブロックごとの考え
5. 実現に向けて

2

プロポーザルの提案と、その後の検討/協議により
見えて来た方向性を説明

4

この場所(CA)の存在意義を
考えることから。

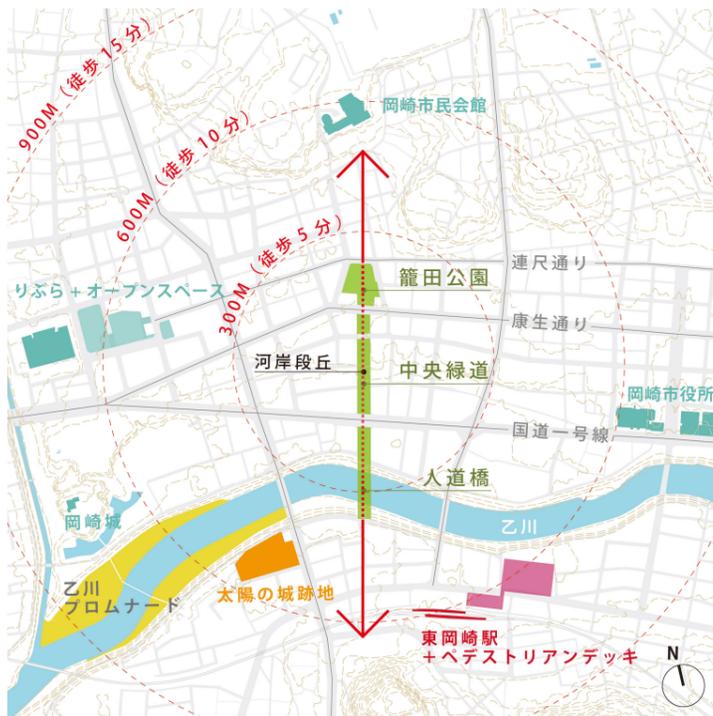
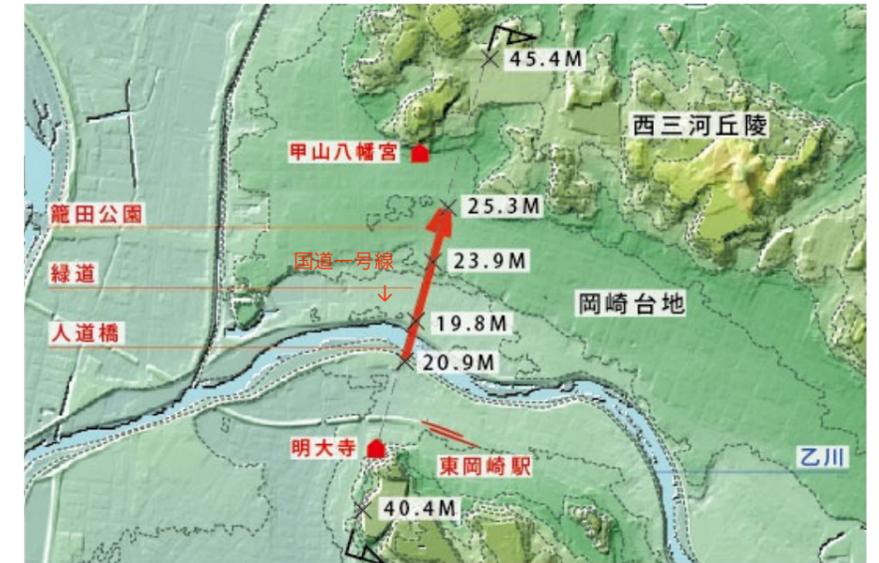


「先ず広域エリアの全体像から考える」

- ・この先、どんな街にして行きたいのか。
- ・そのために、ここはどんな場所であるべきなのか。

<既存ストックとしての自然環境>

丘陵と川を繋ぐ軸
+
歴史的な街のスケール感



<エリア全体計画>

どんな街にして行きたいのか→

中心市街地を
「歩いて楽しい街」へ

- ・回遊性を回復して中心市街地に界隈を創出
- ・新しい「都市の移動モード」となる



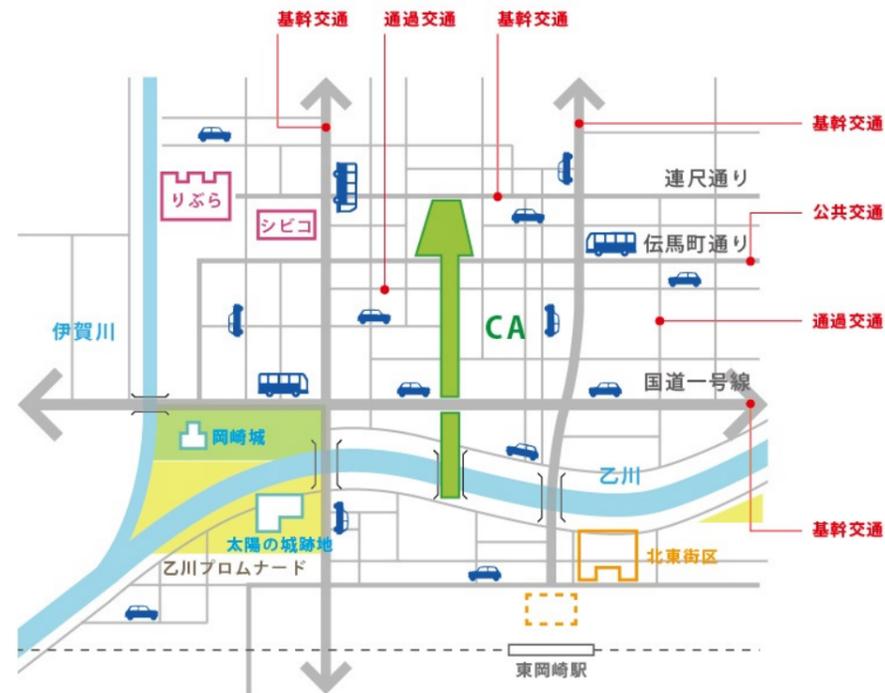
どんな場所であるべきか→

多くの既存ストックを
繋ぎ合わせる軸を形成する

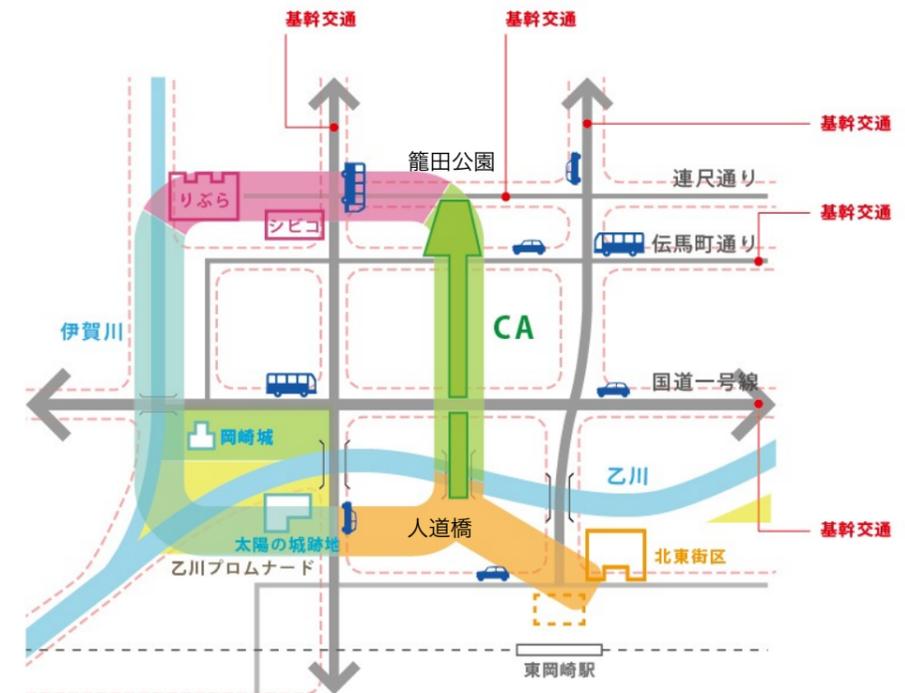
- ・多くの公共施設群
- ・河岸段丘や乙川、河川敷などの自然資源
- ・歴史的街区、旧東海道の存在
- ・リノベーションまちづくり/かわまちづくり/歴史まちづくり/観光まちづくりの活動

実現のためには
広域の交通計画や
広域エリア全体の持つポテンシャルから
考えていく必要がある。

「歩いて楽しく、自転車で回れて、車でも来やすいまち」を実現する為に「通過/基幹交通」と「歩行者優先の界限」を明確にする

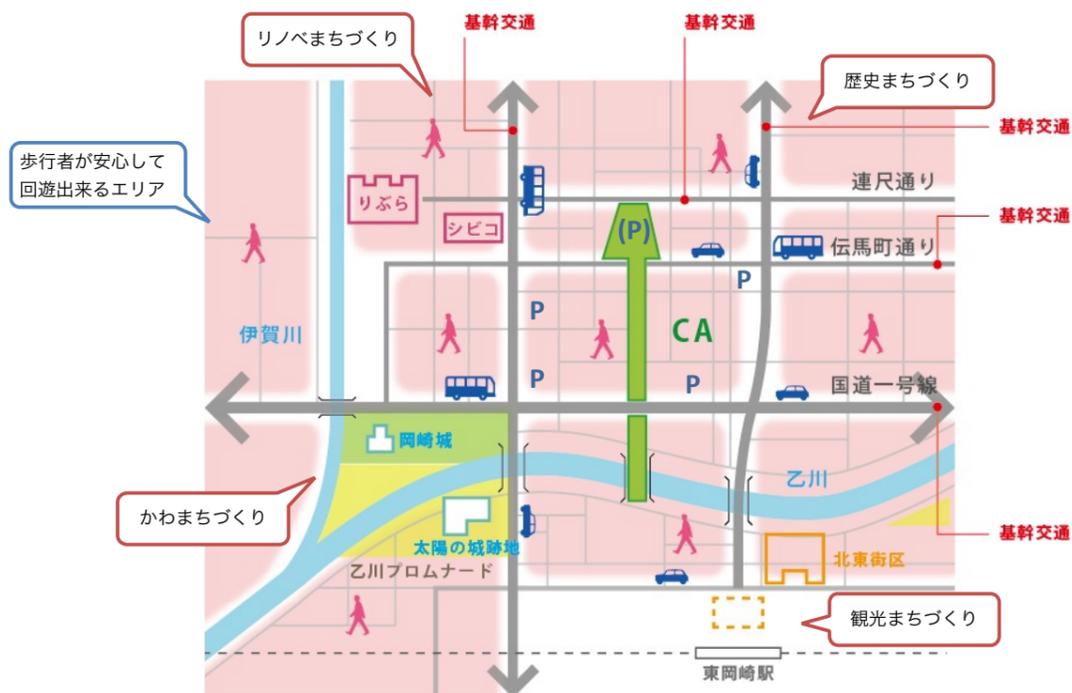


歩行者の界限性をつなぐ回遊動線(ループ)=「Quruwa/くるわ」が機能する



- ・安心して歩ける界限と、移動/来訪の利便性を両立させる。
→同時に公共交通機関の見直しや、駐車場の再配置も検討することも重要
- ・トラフィックセルの内部は、歩行者に最適化された空間を目指す。

長期的に計画する必要がある



歩行者の界限性をつなぐループ(Quruwa)が生まれるのでCAがどんな場所であるべきかの方向性が見えてくる。



- ・市道籠田町線と中央緑道は歩行者を最優先にした空間として一体で考える。
→「Quruwa/くるわ」のループの一部として検討する
- ・トラフィックセルにより分けられたCA(ブロック)はそれぞれ異なる個性を持ち、多様性が歩く楽しみを提供する。
- ・CAは移動と滞在が共存する場所となる。

どのようにして、
この場所をつなぎ、機能させて行くのか



- ・様々な専門家からなるデザインチームの編成。
→(CAデザインチーム)
ランドスケープ、交通計画、市民参加、公民連携、地元NPO
- ・デザイン会議と市民参加ワークショップによる、ソフトとデザインの連動
→模型を使った合意形成(S=1/500、S=1/300)
- ・民間主導の公民連携まちづくりを導入し持続可能な仕組みを作る
→PPPエージェント、事業者、行政、市民の連携

17

ありがとうございました。